【添付資料 2】

表： インドネシア・チレボン石炭火力発電所と日本の石炭火力発電所との環境対策技術比較[1]

（作成：国際環境 NGO FoE Japan、2017 年 1 月）

			JBIC 検討中	JBIC 支援	日本の既設石炭火力発電所			
発電所名			チレボン II	チレボン	磯子新 2 号機	磯子新 1 号機	碧南 5 号機	碧南 1 号機
事業者			CEPR	CEP	電源開発	電源開発	中部電力	中部電力
所在地			インドネシア	インドネシア	神奈川県	神奈川県	愛知県	愛知県
電気出力（万 kW）			100	66	60	60	100	70
運転開始の時期			2020（予定）	2012/07	2009/07	2002/04	2002/11	1991/10
効率対策（蒸気条件）			超々臨界圧	超臨界圧	超々臨界圧	超々臨界圧	超々臨界圧	超臨界圧
煙突の高さ（m）			200	215	200	200	200	200
硫黄酸化物対策	中国／インド／EU の基準	現在のインドネシアの大気汚染基準	WLST	CF or FGD	DFGD	DFGD	FGD（脱硫装置のタイプは不明）	FGD 等（脱硫装置のタイプは不明）
排出濃度（ppm）	12 (35)／35 (100)／53 (150)	265 (750 mg/Nm3)	SO2 = 221 (SO2 = 625 mg/Nm3)	SO2 = 227 (SO2 = 649 mg/Nm3)	10	20	25	50 (28) ()内＝02 年改善後
窒素酸化物対策			LNB	LNB	SCR／LNB／TSC	SCR／LNB／TSC	SCR／LNB／TSC	SRC 等
排出濃度（ppm）	25 (50)／49 (100)／74 (150)	370 (750 mg/Nm3)	NO2 = 251 (NOx = 510 mg/Nm3)	NO2 = 404 (NOx = 829 mg/Nm3)	13	20	15	45 (30)
ばい塵対策			ESP	ESP	ESP	ESP	ESP	ESP
排出濃度（mg/Nm3）	10 30 10	100 mg/Nm3	50	29	5	10	5	10 (5)

DFGD： 乾式排煙脱硫装置
FGD： 脱硫装置（タイプは不明）
CF： 低硫黄炭使用（Compliance fuel ）（装置なし）
WLST： 湿式石灰石 FGD 方式

SCR： 選択接触還元法
LNB： 低 NOx バーナ
TSC： 二段燃焼方式
ESP： 不特定の電気集じん装置

[1] より詳細な情報は、こちらを参照。 http://sekitan.jp/jbic/issue